

【高等学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀北高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の重点目標を達成するために、教職員一人ひとりが意思疎通を図りながら、計画的・組織的に教育活動に努め、さらなる学校活性化のための方策について検討することができた。 北高ルーブリック評価表を活用し、生徒が自分自身について振り返りをするという試みを実践し、全体的には生徒の自己有用感・自己肯定感の高まりを確認することができた。 安全・安心に学校生活を送ることができるよう常に情報共有できる体制を備えることができた。 本校の更なる躍進を目指し、生徒・保護者・地域の期待に応えるために、必要な情報が共有できる体制を整えていく。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<p>○自主自律を重んじる自由な校風の下、生徒それぞれの個性や能力、可能性を最大限に伸ばし、ウェルビーイング(自己と地域の幸福)に貢献する人材を育成する。</p> <p>○県内唯一の学科である芸術科においては、芸術の発展に寄与し、芸術の魅力を広く発信することのできる人材を育成する。</p>
----------------------------	---

	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
3 スクール・ポリシー	<p>① 学業での学びを部活動に、部活動での学びを学業に生かしながら学校生活に取り組む意欲のある生徒を求めます。</p> <p>② 自由と責任を両立させ、明るく前向きに集団生活を送ることができる生徒を求めます。</p> <p>③ 失敗を恐れず挑戦することや最後まであきらめず努力する意気込みのある生徒を求めます。</p> <p>④ 創造性、国際性を身につけ、社会のリーダーとして活躍したいという意欲のある生徒を求めます。</p> <p>⑤ 感性を高め、技術を磨き、社会をクリエイティブにしようという意欲のある生徒を求めます。</p>	<p>① 単位制のメリットを生かすとともに、ICTやアクティブラーニングを取り入れ、個別最適な学びを実現します。</p> <p>② 学校行事や部活動、生徒会活動を通して、自ら考え行動する力の育成と協働的な学びを推進します。</p> <p>③ キャリア教育を推進し、生徒それぞれの希望・能力・適性に合った進路実現を支援します。</p> <p>④ 国際交流や外部指導者による指導など、多様な価値観に触れる活動を実施・奨励します。</p> <p>⑤ 主催者教育やSDGsに関する学びを推進し、社会参加についての学びを深めます。</p> <p>⑥ 芸術科では、多様な学校独自の科目を設置し、各専攻(音・美・書)それぞれの専門性を高めます。</p>	<p>① 多様性を尊重し、豊かな人生を切り拓くとともに、より良い社会の形成者として、調和と協調に基づくウェルビーイング(自己と地域の幸福)の実現に貢献する人材を育成します。</p> <p>② 持続可能な社会の実現に向け、様々な視点から物事を捉え、主体的に学ぶ意欲と物事に柔軟に対応する力、諦めず粘り強く取り組む姿勢を育成します。</p> <p>③ 多様な分野において、豊かな教養と優れた感性、高度な技術を持ち、社会や文化・芸術の発展に寄与できる人材を育成します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びの実践による「確かな学力」の向上を図る。 探究活動や部活動、ボランティア活動など体験を伴う活動への主体的参画を促し、授業で学んだ知識や技術を実践しようとする意識を醸成する。 自己分析力を高めさせ、自身の適性や将来の姿を見据えた上で主体的に選択した進路を尊重し、実現に努める。 多様な価値観に触れる機会を設け、誰もが心地よく過ごせる社会(学校を含む)の実現を目指し、諸課題の解決に当事者として取り組む姿勢を養う。 学校の特色を生かした芸術、文化活動、スポーツなどを通じた地域貢献や交流を推進するとともに、その活動について地域での理解を深める。

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目	重点取組				中間評価		最終評価		主な担当者
	評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
					評価	意見や提言			
●学力の向上	●授業のさまざまな場面で、主体的・計画的に学習活動に取り組む姿勢を養う。	○「授業で、主体的に学習することができるようになった」と答えた生徒が70%以上。 ○「学習時間を確保し、計画を立てて学習することができた」と答えた生徒が70%以上。	○「総合的な探究の時間や各教科で、協働的な活動の取組ができた。」と答えた生徒が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 全国模試を通して成績を測定する一方で、指導のポイントを明確にする取組を行う。 定期的に志望校調査を行い、進路検討会でその目標を達成するための手立てを明確にする。 一定の自宅学習時間を確保させるとともに学習時間確保のためのタイムマネジメントを行わせる。 総合的な探究の時間を中心に、協働的な取組を積極的に、話す能力、聞く能力を育むとともに思考力を高める。 学期末にアンケート調査を実施し、協働的な活動によって得られた知識や新たに見つけた課題などに気づかせる。 					進路指導部 各教科
	○他者の考えや意見を聞く機会を設定し、生徒に物事についての多様な考えを身につけさせる。	○「総合的な探究の時間や各教科で、協働的な活動の取組ができた。」と答えた生徒が70%以上		<ul style="list-style-type: none"> 北高ルーブリックを活用し、生徒の自己の成長を促す。 学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動等への積極的な参加を促進し、他者と協力して共通の目標を達成する力を養う。 SOSの出し方教育を行う。 スクールカウンセラーによる講話を行う。 生徒や保護者の円滑なカウンセリング利用講演会や国際交流を推進し、多様な価値観に触れる機会を設ける。 地歴公民、その他の教科における人権教育の実施を呼びかける。 					進路指導部 各学年
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○7月と12月に行う「北高ルーブリック」で、生徒の成長がみられる。 ○「学校は、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動をおこなっている」と答えた生徒80%以上 ○部活動加入率：90%以上		<ul style="list-style-type: none"> 年2回のアンケート調査の実施 アンケート後1週間以内に集計の完成と情報の共有を行う 覚知の際に各分掌で協力し早期の対応を行う。 生徒総会においていじめ撲滅宣言を行い、生徒間での意識の共有を図る。 					教務部 生徒指導部(生徒会) 教育相談部 総務部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ重大事案件数：0件 ○「いじめ」防止等について組織的に対応ができていてと回答した教職員の割合が70%以上		<ul style="list-style-type: none"> 服装や生活について自ら考えさせる指導を行う。 校則について生徒会主体で考え遵守する指導を行う。 自転車マナーについての指導を行う 全職員および生徒会と連携し自律した生活を促す。 					生徒指導部 (学年主任)
	○生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導	○「学校は、生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導を行っている」と答えた職員が70%以上 ○「北高生は、生徒が自主的・自律的に行動できている」と答えた生徒70%以上		<ul style="list-style-type: none"> 新着案内などの掲示場所を増やす。 図書紹介のPOP作りをする。 校内読書会を実施し、読書の機会を増やす。 					生徒指導部
	○興味関心の幅を広げ、豊かな心を育む	○「学校は、読書活動の活性化に努めている」と思う」と答えた職員が70%以上 ○「私は、読書を通して気づきや学びがあった」と答えた生徒50%以上		<ul style="list-style-type: none"> 生活状況調査、食に関する意識調査の実施 保健だよりの発行 保護者への個別の連絡 各種健診後の受診率を前年度より5%向上させる。 各種健診後の受診勧告を年に2回以上行う。 生徒への個別指導、再検査 保健だよりの発行 					保健・厚生部
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒85%以上		<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日等の設定、積極的な休職取得の奨励などによって、長時間労働の縮減・解消に対する意識が高まったと思う」と答えた職員が80%以上 「職員間での意見交換や連携しやすい雰囲気作りができている」と思う」と答えた職員が70%以上。 					保健・厚生部
	○心身の健康問題に対する自己管理能力の育成	○各種健診後の受診率を前年度より5%向上させる。		<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日の設定 学校閉庁日、年休取得推進期間の設定 部活動休業日の設定 PCを使っているアンケートが可能なものは利用する。 現状に合った取組を考えながら、行事・企画を精選する 業務の進捗状況の共有に努め、職員間のフォロー体制を強化する。 特別支援教育に関する研修会の実施 ケース会議の開催、関係者間での情報共有 					教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●「定時退勤日等の設定、積極的な休職取得の奨励などによって、長時間労働の縮減・解消に対する意識が高まったと思う」と答えた職員が80%以上		<ul style="list-style-type: none"> 「特別支援教育に関する研修会を年1回開催する。」 					教頭
	○教職員の連携促進	○「職員間での意見交換や連携しやすい雰囲気作りができている」と思う」と答えた職員が70%以上。							教育相談
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上								教育相談

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
				評価	意見や提言				
○ICTの活用	○ICTを活用した情報収集や情報発信	○「学校は適切にICTを活用して情報を収集・発信している」と答えた職員・生徒・保護者が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ上の学校に関する情報を整理し随時更新する 中学校説明会用の学校紹介資料を作成する。 アンケート等でICTを利用して業務削減を行う。 					総務部 主幹	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 部活動やボランティア活動等を通して、地域と交流したり、地域と連携した活動に取り組む。 					主幹	

6 総合評価・次年度への展望	
----------------	--